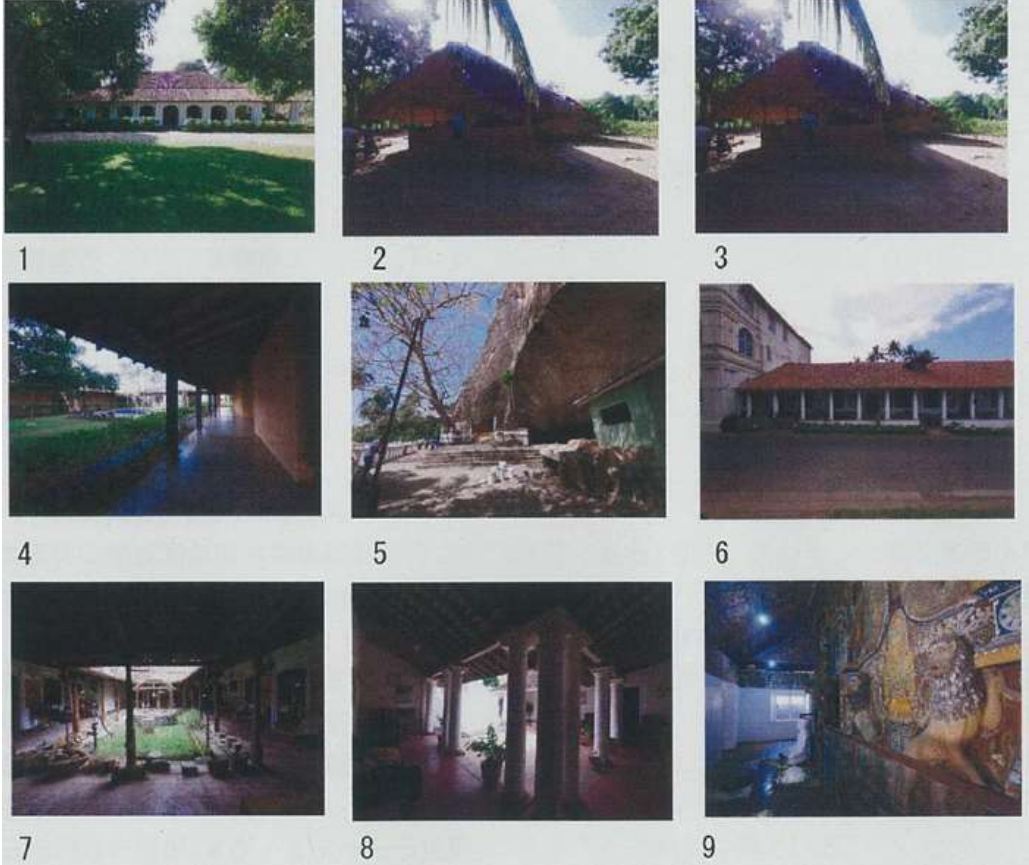


2019年度 独創的研究助成費 実績報告書

2020年1月21日

報告者	学科名	デザイン工学科	職名	教授	氏名	岩本 弘光
研究課題	スリランカの伝統的メダ・ミドゥーラ建築に関する研究3 (スリランカ国立モラトワ大学建築学部との共同研究)					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	岩本 弘光	デザイン学部・教授			
	分担者					
研究実績の概要	<p><input type="checkbox"/> 学術的背景、国内外の動向と位置づけ</p> <p>本研究は平成30年度本学独創的研究の継続研究である。またスリランカ国立モラトワ大学建築学部との共同研究を継続する。国内外におけるスリランカのメダ・ミドゥーラ建築 (meda midura, シンハラ語：中庭建築) に関する研究は体系化されておらず、基礎研究の進展が望まれている。これまで申請者は、スリランカ人建築家ジェフリー・バワの研究「解説 ジェフリー・バワの建築、彰国社、2016年」の刊行や、「日本建築学会機関誌、建築雑誌2017年2月号、アジア建築家山脈スリランカ編」の寄稿により、国内のスリランカ近現代建築研究に貢献してきた。こうした研究成果を通じて、スリランカにおける近現代建築の伝統的固有性が「メダ・ミドゥーラ建築」にあることの知見を得ている。</p> <p><input type="checkbox"/> メダ・ミドゥーラ建築の伝搬と発展</p> <p>スリランカにおける「メダ・ミドゥーラ建築」の文献上の初出は、17世紀半ばにセイロンで幽閉生活をおくったR・ノックスによる『セイロン島誌』であり、その後、18世紀半ばに島を訪れたJ・W・ハイト、19初頭キャンディ王朝に訪島したJ・デヴィの報告に続く。いずれも、貧しい人々は1部屋か2部屋の家に対して、貴顕な人々がコートヤード・ハウス (メダ・ミドゥーラ建築) に居住していたと記述している。考古学者、建築家V・ボスによるヒアリング調査を実施して、古都アマラーダプラの現場調査を通じて、シンハラ人が住む島中央部では、外敵や象など大型野獣から住環境を守るために、自然発生的にメダ・ミドゥーラ建築が形成された、とする新たな資料と知見を得た。メダ・ミドゥーラの出自特定は記述不足で困難、特に南アジアやムスリムの影響が大きいとする、建築家I・ラヒームの主張を考え合わせると、異なる民族や宗教が個別にメダ・ミドゥーラ建築を島に持ち込んで発展した可能性がある。今年度の調査地区は島中央部キャンディ地区と南部海岸地域ゴール他とした。特に、先住スリランカ人とみなされているウェッター人居住地区において、泥と木による伝統的建築を調査する成果を得た。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>□ 現地調査</p> <p>I. シンハラ人が多く居住する、島中央部キャンディ地区と南部海岸地域ゴールを中心に口型、L型のメダ・ミドゥーラ住宅・ホテル・寺院を調査した。</p> <p>1. キャンディ「アムヌガマ・ワラウエ」 2. マヒヤンガナヤ「ウェッター人の泥の家」 3. パドゥッタ「ボゴダ・ブリッジ」 4. ミリッサ「シナモン・エステート」 5. タンガッタ「ムルキリガッタ・ラジャ・マハ・ヴィハーレ」 6. ゴール「スリランカ歴史博物館」 7. ゴール「オランダ商館」 8. ベントータ「カサデュワ島・ヴィハーレ」 9. コロンボ「スボダラマ・ヴィハーレ」 他</p> 
	<p>成果資料目録</p>